

# 「階段」から見たわが国戦前期の住宅の変遷に関する一考察 - 戦前期に刊行された住宅関連書籍を主史料として -

内田研究室 古俣和将

**研究概要：**日本の在来住宅は平屋が一般的であったが、明治以降、2階建てを中心に重層化された住宅が増えたとされる。こうした戦前期における2階建て住宅の普及の中で、階段のあり方も重視され始め、その形状や配置場所などが変化したと考えられる。しかし、管見によれば、これまでの近代住宅史研究において、階段に着目し、その変遷過程について論じたものはほとんど見られない。

**研究目的：**本研究では、戦前期に刊行された住宅関連の書籍（T9～S15）と、住宅間取り図集（M40～S15）を史料とし、住宅の階段の形状や配置場所等の分析を行い、わが国戦前期の住宅の変遷を明らかにすることを目的とする。

**研究成果：1. 言説から見る住宅における「階段」** 言説によると、従来の日本の住宅における階段は、人目を避けた場所に急勾配な直線階段を配置するのが主流であったのに対し、西洋の住宅では、玄関ホールに踊り場付きの曲折階段を配置するのが主流であったことが推察された。また、日本の住宅の階段は危険、不便であるため、曲折階段を玄関ホールに配置することを推奨する記述も確認された。この推奨された階段の特徴は、西洋の住宅における階段の特徴と一致しており、階段のあり方は、西洋の住宅のものを理想と考えていたことが窺える。

**2. 間取り図集から見る日本の住宅における「階段」の変化** 分析にあたって、住宅様式の分類では、伝統的な和館及びそれをベースに洋室等を取り入れた住宅を「和風系住宅」、洋館及びそれをベースに和室等を取り入れた住宅を「洋風系住宅」とした。この他、階段の種類は表1、階段の配置場所は表2の通りに分類した。

**2-1 日本の住宅における「階段」の変化** 各年代の階段の種類・配置場所・踊り場の最も多い組み合わせ

を見ていくと、「洋風系住宅」では終始一貫して「折れ系」・「玄関ホール型」であり、大正13年より踊り場が付加される。「和風系住宅」では大正8年まで「直進系」・「廊下型」、大正13、14年では「直進系」・「玄関ホール型」、昭和2年からは踊り場付きの「折れ系」・「玄関ホール型」へと変わっていくことがわかる。以上のことから、階段の種類と配置場所を見ると、「和風系住宅」は「洋風系住宅」の主流の形式である「折れ系」・「玄関ホール型」へと変化していったといえる（図1）。

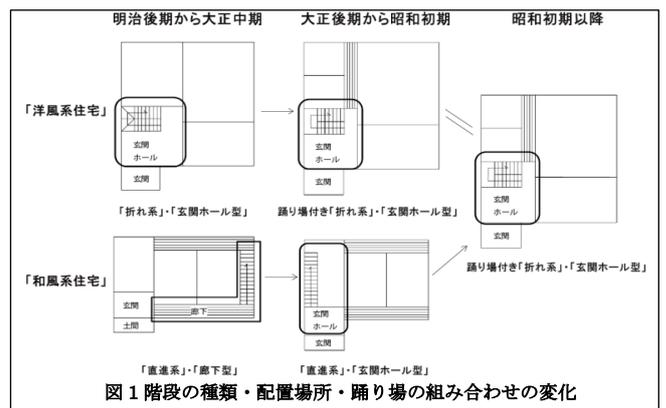
**3. おわりに** 言説では、西洋の住宅にみられるような「階段」へと改善することを推奨していた。図集の間取り図では、「洋風系住宅」は明治後期から一貫して西洋的な「階段」であり、「和風系住宅」でも、大正後期から昭和初期にかけて西洋的な「階段」へ移行しており、言説における「階段」の改善に即した動きが窺われた。したがって、戦前期の日本の在来住宅の「階段」は、住宅の近代化の中で改善が推奨され、大正後期頃から具体的に実施されていたと考える

表1 階段種類分類表

| 直進系 | 折れ系 | 回り系 |
|-----|-----|-----|
|     |     |     |

表2 階段配置分類表

| 玄関ホール型                | 部屋型                       |
|-----------------------|---------------------------|
| <br>玄関ホール<br>玄関<br>階段 | <br>部屋（書斎、茶の間、台所など）<br>階段 |
| 廊下型                   |                           |
| <br>廊下<br>玄関<br>階段    |                           |



**苦勞した点や感想など：**苦勞した点は、住宅間取り図集の分析です。間取り図一つ一つの、階段や住宅そのものに関するデータをとることは、とても地道で量も多く大変でした。しかし、これまで階段の変遷に関する既往研究がないため、自分が日本の戦前期の住宅に設けられる階段について明らかにしたいという気持ちで頑張ることができました。その結果、ディプロマ賞を頂けることができ、とても嬉しく思います。また、この場を借りて、ご指導頂いた内田青蔵先生、研究室の先輩方には深く感謝を申し上げます。